

東村山市民新聞



199号
定期購読料
一部 150円



をやめればすむことだ。また、各議員への連絡は、タブレットPCなど配りなくとも、現在も各議員へ

「特権」をふりかざし、コロナ不況を無視した議員らに鉄槌

タブレットPC配布計画はボツ!! 議会への高額システム 導入の予算査定はゼロ

前号で既報の通り、自公、および佐藤まさたか議員

らは、反対する議員の意見を無視し、毎年600万円以上もの税金を使い、議員のための、特別なシステムで情報を閲覧するためのICT高額システムを契約し、さらに全議員に一台ずつタブレットPCを配布しようとして画策したが、「議会への高額システム導入」およびそれに伴う「議員へのタブレットPCの配布」のための600万円余の予算要求は、行政側におおきく拒まれ、ゼロ査定、つまり「ボツ」となった。



朝木議員や共産党、立憲民主党の藤田議員らは、「コロナ不況の最中に、必要のない高額システムを導入することに強く反対していたが、導

入推進派の議員らがこれを無視して強行しようとした結果だった。

しかし、特に公明党の議員たちは、この高額システムを契約することに執着しており、このゼロ査定が議員代表者会議で伝えられた日には、公明党の控室からは、議員の怒号が廊下まで響いていた。

この高額システムとは、行政や議会の情報を、職員や市民とは異なる「特別」のシステムで、配布されたタブレットPC(iPad)により閲覧するといったもの。しかし、閲覧する情報は市民とほとんど同じもので、市のHPを見ればすむこと。また、ペーパーレスも理由としていたが、必要な情報はほとんどHPに掲載されているので、特別なシステムなどなくとも、議員への紙資料の配布

問題なくメールで行っている。つまり、毎年600万円以上も使っているシステムが必要だという合理的理由が全く不明なのだ。

現在、議員は各自のPCとインターネット環境をそれぞれ持つことで、議会活動に全く困っていない。

市の財政は逼迫!

東村山市は自主財源が乏しく、国都からの交付金や臨時財政対策債などに依存して財政運営がされているが、2022年度は、臨時財政対策債が大幅に削減されるため、(約14億円マイナス)一般財源は大きな打撃を受け、深刻な財政状況なのだ。

さらに、今後のコロナの感染状況も予想ができず、またウクライナへの侵略等による影響など、これからの経済状況はまったく不透明。

この計画は、「議員全員協議会」という、市民が傍聴もできず、会議録も残らない会議で進められ、議長は600万円という予算額については市民に公表しないよう「口止め」までしていた。

本来、納税者代表として、税金の使途を監視するべき議員が税金にたかっているのでは話にならない。

インサイド レポート

「市議会だより」まで私物化!

朝木直子

「市議会だより」(2月15日)で、私の一般質問の内容が掲載されていないと、多くの方からお問い合わせをいただきました。

通常、「市議会だより」の一般質問の欄には、各議員が自分で選んだ質問答弁が掲載されています。東村山市議会では、各議員が、この一般質問の欄に、どの質問答弁を載せたかかを、質問日の3日後の12時までに議会事務局にメールで通告することになっています。

この「市議会だより」の一般質問掲載について、9月議会から、通知の締め切りに1分でも遅れたら「市議会だより」への掲載をしないという議員への懲罰的ルールの下に編集されることになりました。

よって、12月議会の通告については私の通告が送信できていなかったため、私の一般質問の欄は質問の項目のみが掲載され、内容は掲載されませんでした。

このルールを作ったのは、公明党横尾議員を委員長、佐藤まさたか議員を副委員長とする「広報広聴委員会」で、「市議会だより」の編集も行っています。本来、印刷ギリギリまで原稿を集めるのが、編集者の仕事ですが、東村山の

「市議会だより」は、通告の締め切りから印刷まで一ヶ月以上もあるのに、締め切りに遅れたら「掲載しない」という、議員への懲罰的な編集ルールにより編集されているのです。市民という読者のための「市議会だより」だということをお忘れしており、私物化しています。

最近では、予算や決算の討論などでは、少数派の意見は載せない方向への動きまであるようです。少数派であっても、その議員に投票した市民がいる以上、無視して良いはずがありません。

議員の傍聴まで拒否!

また、最近では委員会をオンラインで開催しているようですが、傍聴を申し出た共産党の議員に対し、横尾議員とそれに追随する佐藤まさたか議員が「傍聴させるべきではない」と大声で主張し、傍聴を拒否しました。

「市議会だより」は市民が議決の内容や議員の議会活動を知るためのものですが、私(朝木)と共産党、つまり予算に反対する「野党議員」が不在でどこか傍聴すらさせない委員会で、公明党を中心とした、一部の議員に都合の良いように編集されているのです。

朝木直子 VOICE

朝木直子略歴
▽諏訪町出身、化成小・二中、都立高武蔵・慶應大卒／会社勤務／高齢者団体役員／母・明代議員殺害事件後、遺志を継ぐ／地元FM局で番組作り／1999年から市議、現在6期目（草の根市民クラブ）



▶私は議員報酬のお手盛り値上げに反対し、任期中のお手盛り値上げ分および市職員より多いボーナス減額提案分は受け取り拒否しています。

2021年12月時点での議員報酬返上額
5,870,410円

今年度から、市内160カ所の市立公園の管理を、民間事業者に委託することが議決されました。現在東村山市では、市役所1Fの市民課カウンタ―や、受付、生活困窮者の相談事業、スポーツセンターや社会福祉センターなど、市職員が市民としっかり向き合って対応するべき窓口や施設を民間事業者に業務委託しています。

本来、市職員は、市民の困りごとの相談や苦情、感謝の言葉など、市民の声を直接聞くことで成長し、市民と同じ目線で行政運営しなければならぬはずですが、その窓口を民間事業者に任せてしまっている、市職員の質の低下は否めません。

これらの業務を民間事業者へ委託することについて、渡部市長はお題目のように、「民間のノウハウの活用」を理由としています。そもそも公務員も「民間のノウハウ」を学び、柔軟で市民に寄り添った行政を目指すべきです。



朝木直子ウェブサイト

今年からカルガモ親子は見られない？

東村山駅東口ロータリー池

タウンニュース

東村山駅東口ロータリー池の植え込みが、2月中旬に剪定され、地面が見えるほど短くなっている。理由は「カルガモの産卵を防ぐため」だ。この池では、毎年、この時期になると、カルガモのヒナが産まれ、可愛いヒナ達が泳ぎまわる姿は市民の癒しとなっていた。テレビ局も何度も取材にきており、有名な「カルガモ親子スポット」だったが、今後はこの場所でのカルガモ親子は見られなくなりそうだ。



給餌が不可欠であるため、これまで、ボランティア市民が1日2回、給餌をしていたが、最近

では、時期をずらして数羽のカルガモが産卵し、ひなが巣立ちするまで約2か月かかることから、ボランティアの毎日の世話が4ヶ月を超えることもあり、大きな負担となっていた。また、年によっては春から秋にかけて20万円近くかかる餌代は、以前は池に設置された「募金箱」で、かなりの部分が賄われていたが、市がこの募金箱設置を禁止したため、この2年はほとんどが数名のボランティアが負担していたのが現状。

これまで何度も市への支援を要請したが、法的に不可能という回答が繰り返された。市民を楽しませていた「カルガモ親子」は実は心あるボランティアが必死で支えていたのだ。また、成長し、道路に飛び出したカルガモが交通事故に遭うことも多く、昨年は市担当所管がカルガモが道路に飛び出さないようにフェンスを設置するなどしたが、ボランティアの負担という課題は未解決のままだった。

そしてボランティアの負担を見かねた市担当所管が専門家と相談した結果が、「植え込みの強剪定」。市民にとっては寂しい結果となってしまった。

編集後記

「魚は頭から腐る」

ロシアでも日本でも

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって1カ月余。いまだに戦火は止まず犠牲者が増え続けている現状に、あらためてプーチン大統領の暴挙に強く抗議するとともに、一日も早い停戦を心から願いたいと思います。

そのロシアの諺に「魚は頭から腐る（Рыба гниёт с головы）」というものがありません。組織の腐敗は上層部から始まり、次第に下部に広がっていくという意味ですが、軍事侵攻という暴挙を抑止できなかったプーチン政権の腐敗は、相当進んでいたということでしょう。

しかし「魚は頭から腐る」のはロシアばかりではありません。いま日本でもウクライナ侵攻を先途とはかりに、核共有や原発再稼働の声を上げている政治家たちがいます。その先頭に立っているのが「ウラジミール。君と僕は、同じ未来を見ている」と、プーチン大統領との盟友関係を誇示し、「モリ・カケ・サクラ」と行政を私物化した安倍元首相であることは笑い話ではすまされません。

「頭」から始まった腐敗は、着実に広がっており、いま東村山市議会でも、元首相を首班に担いだ自公政権を構成する政党の地方議員が、市民不在の反民主的な議会運営を続けています。本紙はそうした腐敗を徹底的に追及していきたいと思っています。

編集長 五味安利